



地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

東日本大震災に対する横須賀市の支援について

3月11日に発生しました東日本大震災におきまして、被害に遭われました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々、ご遺族の皆様に、深くお悔やみ申し上げます。横須賀市では、一日も早い復興を願い、困った時はお互いさまの精神で、さまざまな支援を行っています。ここでは、いくつかの取り組みについてご紹介します。

まず、人的支援では、緊急消防援助隊員91人、保健師38人、一般職員10人、上下水道局職員6人をはじめ、延べ154人の職員を派遣し、市立病院からも医師、看護師など医療スタッフを延べ40人派遣しました。

救援物資は、3月中に市民・団体の皆様から飲料水や下着など延べ2,208件を受け付け、段ボール箱で約1,400箱を、日産自動車(株)、日産クリエイティブサービス、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会の協力をいただき被災地へ発送しました。市の備蓄品からは、非常食(アルファ化米)18,000食などを、カレーの街よこすか推進委員会事業者部会からは、レトルトよこすか海軍カレー10,000食をはじ

横須賀市経済部長
佐藤 清彦



め、さまざまな支援をしています。

被災者の受入れでは、65世帯・147人の方々が市内の市営住宅、民間住宅などに避難されています。

また、日本赤十字社横須賀市地区で義援金を募ったところ、これまでに61,377,183円が集まりました。

このほか、経済部では、地域経済を活性化するための取り組みを推進することが、被災地への継続的支援につながるものと考え、市内中小企業への支援、イベントを自粛することなくできるだけ開催するなど、積極的に事業を展開しています。

具体的には、震災の影響で業績が低迷している市内中小企業を支援するため、4月1日に「震災対応緊急資金」を創設し、市の認定を受けた中小企業者に対して、運転・設備資金として8,000万円を限度に低利で融資しています。さらに信用保証料についても30万円(補助率2分の1)を限度に補助しています。

5月には、三笠公園で「よこすかカレーフェスティバル2011」を開催し、義援金箱を設置するとともに、友好都市である会津若松市を応援するため「ガンバレ会津地野菜直売コーナー」を設け、多くの皆様に会津地野菜の安全性をPRしました。

引き続き、本市では、被災地並びに市内中小企業を支援してまいります。

産業クラスター研究会の皆様におかれましても、地域経済の活性化が、被災地支援にもつながりますので、中小企業振興にご尽力賜りますようお願い申し上げます。

(支援の状況は5月31日現在)



被災地での横須賀市消防局員の救助活動

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

平成23年度事業方針

理事長 木下 武

3月11日、関東・東北地方は大地震と原発事故に見舞われ、4ヵ月過ぎても復興への道筋が定かではありません。日本経済全体への影響は甚大で、東北地方はもとより各地域の中小製造業への影響も深刻であります。当会のミッションは「地域経済の活性化への貢献」です。その実現のため地域経済の実態把握に努め、支援活動の多様化・強化に努力いたします。

1. 運営関係

横須賀三浦地区や横浜市南部・北部地区の中小企業への支援活動強化や情報発信機能の拡充などを図るとともに、他団体との関係拡充も指向します。

補助金申請や業務委託受託などには、当会の現有勢力を挙げて対処し、関係官庁・独立行政機構等との関係強化に努め、関係業者への支援強化に努力いたします。

国税庁認定NPOの認定取得を目指します。過去2年間で認定条件を整えましたので、本年度中に申請いたします。行政機関や商工会議所との協働事業展開、社会貢献事業への参画(2012年問題、即ちシニア世代の地域活動参加への支援)など公益事業にも積極的に参加します。

2. 事業関係

従来からの各種支援事業、即ち特許・社員教育・技術改善・米軍入札・文書翻訳・海外実務コンサル・ホームページ・住宅リフォームなどを強化します。環境事業(ISO・EA21認証取得、小型家電機器のリサイクル事業など)にも、昨年11月に新設した環境事業部会を中心に参加し、関係諸団体との関係強化に役立てます。

「横浜市経済の新たな担い手交流会」を通じて東北地域の中小企業支援やホームページ事業活動で得た人脈を活用して事業の広域化を図り、その結果を東日本大震災への支援活動に展開します。

産官学連携では、「中小企業が如何にして生き残るか」など環境分野を中心に、CSRを基軸にしてシーズとニーズの出会いの場を構築し、関東学院大学や横浜国立大学、神奈川県産業技術センターとの連携に努力します。

その他、会報誌の季刊発行と配布先の拡大、現場密着型取材の充実、法人会員の広告掲載・記事掲載などを図ります。当会ホームページについては大幅改正を実施しました。さらに改訂作業の簡素化を実現します。

【歳時記】

●「きんぎょうくい、きんぎょうく」もの憂い物売りの声。金魚屋が天秤棒に前うしろの桶をかつぎ、水がこぼれないように調子を取りながら金魚を売りに来た。静寂な、けだるい夏の昼下がり。うろ覚えだが、「二回は見た気がする。●アイスクャンディー屋が自転車の荷台に箱を積んでアイスを売りに来た。あの箱は不思議な箱だった。●夕闇迫る中、豆腐屋も自転車に積んで、どこか寂しい音色のラッパを鳴らし豆腐を売りに来た。それは家路への合図だった。●暗くなるのが待ち遠しく、夕飯もそこそこに懐中電灯と団扇と蛍籠を打ち振って兄弟、従兄弟たちとの蛍狩り。「ほっつ、ほっつ、ほくたる来い……」。光が点滅し、曲線を描いて舞い上がる。真昼の喧騒の水場とは違う夜の川辺。そして、夜の川はいつも静かに流れていた。●見上げれば満天の星屑。あれが天の川、はくちよう座。「宇宙は一体どこまで広いのか」首が痛くなっても見飽きることはなかった。夜風が肌に心地よい。●帰ってくる湧き水に冷やしておいた西瓜を我さきに。冷蔵庫なんていらなかった。もう蛍籠のことはすっかり忘れていた。●蚊取り線香を焚いて大きな麻の蚊帳を吊る。暑苦しくて寝つかれない夜もあったが扇風機は確かなかった。●台風が来ると決まって停電。一晩中はザラだった。ロソクの灯りが届かない暗がり怖く、電気がついた時はホッと嬉しかったものだ。●みんな省エネ。見かけなくなくなったのはいつの頃からか。

想えば随分遠いところまで来たものだ。

添付資料、忘れて済まぬとまた添付もれ(興)



部 会 活 動 紹 介

企業支援事業部会と横浜事業部会が行った支援実績 2 例を紹介しす (広報部会)。

企業支援事業部会

経営人材の育成—ヘリオス経営塾

「各自がヘリオスを担う責任者として成長して欲しい」これが昨年 6 月より半年、ヘリオス経営塾スタートまでディスカッションした(株)ヘリオス・富野養二郎社長の結論でした。成功を確信し 12 月、経営塾第 1 回を迎えました。

1. 成功 3 つのコツ

この道 30 年、現場体験からの成功法則は①楽しいこと②主役は参加者③すぐ役に立つこと。これを終始徹底することです。参加 11 名、育成講座開始にあたり架空の 3 社を設立。単純にジャンケンで社長と総務部長が選出され、1 年 100 時間コースがスタートしました。

2. 着眼大局着手小局

仕掛けはベースに戦略経営 (MBA ビジネスコースプログラム) を敷いて、その上で自社の問題解決を参加者が料理していきます。心技体のバランス=全体最適化こそ経営人材への基本条件です。第 1 回合宿テーマは「当社の問題は何か」でした。

3. すぐやるプロジェクト

130 からの問題が発散され、解決策に 100 の知恵が発散収束されました。問題提起者が解決策を立案し実践する！この自己完結型人材こそ宝人材！

実践課題⇒実践計画書⇒すぐやるプロジェクト結成。①挨拶運動②人材育成計画③ビジョンの構築—実践継続の職場家庭での現場が才能開花道場です。

4. 世代交代へ入魂

第 2 回は SWOT 分析 (機会脅威&強み弱み) で事業戦略仮説を、第 3 回は戦略方針実現のマーケティング戦略 (顧客・競合・協力会社分析) を衆知結集で明らかにしました。丁度、往路 50 時間から復路に。

夏が最大の山場、世代交代へ最も重要なテーマ理念体系構築です。冒頭の社長結論に向かって・・・

(金子武義)



研修風景

横浜事業部会

品質・納期管理の徹底により 8 ヶ月で黒字転換した企業支援

支援した A 社は精密金属部品及び金型を加工製造する会社です。得意先に恵まれ、品質管理、納期管理が徹底されれば、注文も継続し利益も出るはずですが、管理が悪いため客先の信頼がなく、赤字続きでした。この点を改善してほしいと支援要請を受けました。

【支援内容】

社内会議に出席し、その場で改善点を指摘してその実行を現場も含め改善に向けて指導しました。

- 顧客別売上げを見ると、大半を 2 社で占め、恵まれている反面、信頼を失うと大変なことになります。顧客の立場で物を作り、高品質・納期を守ることを指示しました。
- 外注先からの納入品に不良・不具合が多く社内で手直しをしていました。外注先への発注書が曖昧だから相手に何も言えません。厳しく、正しく交渉すれば相手も対応し、共にレベルアップします。発注書に加工条件、精度を明記することを指示しました。

3. 不具合・ミスが多発していました。内容を見るとポカミスばかり。ミス別に記し、ミスした担当者名を記入することを指示しました。これは犯人探しでなく、指導・教育の効果が具体的にできて、再発防止につながりました。

4. 不具合の内容を不良率で発表していました。A 製品の不良は 6%であったと報告があったが、今後は「個数」を報告せよと指示しました。何故ならこの製品は 90,000 個/月であり、不良は 5,400 個だ。この数はフル稼働で 3~4 日分に相当し、原価は 100 万~150 万円です。「損失の意識を持って」「ミスをゼロにすれば黒字化できる」と教えました。

5. 納期遅延が毎月多発。当月目標の 2/3 は受注残でした。月の前半にこの分を生産計画とせよ、平均的に組むから月末がバタバタし納期が乱れるのです。工程管理を即見直すことを指示しました。

こうした厳しい指摘・指導により、8 ヶ月の支援で納期を守り、単月で黒字を達成。立派に利益の会社となりました。

(鈴木清文)

広報部会

新HP公開・法人会員情報のマスコミ報道・会報誌年4回発行

広報部会は産業クラスター研究会8年の歴史の中で、最も積極的な活動を展開できる1年になりそうです。

5月28日、投稿・掲載までに時間がかかりすぎなどが指摘されていた従来のHPを一新、「誰でも、いつでも、簡単に」最新情報を投稿・掲載できるHPを公開しました(写真右)。WordPressと呼ばれ、最近欧米で脚光を浴びているフリーウェアツールを採用した結果実現しました。管理責任を明確にした上で、ID・パスワード登録した当研究会個人会員は、ワープロ文書の編集と同じ手法・感覚で、当研究会のみならず法人会員の最新情報を、即座に投稿・掲載できる優れたものです。

HP公開作業など一度も経験したことのない「IT音痴」の私でさえ、平成23年度定期総会報告の原稿を、専門家に教えてもらいながらも、通常と変わらない感覚で制作。最終作業の「公開」ボタンをクリック直後、投稿したばかりの原稿が画面に映し出された時の興奮と感動は忘れることはできません。

今年度は新鮮なコンテンツを満載したHPをお届けできます。これをご覧になった法人会員A社からぜひ採用したいとお見積もり依頼があったことは、高く評価されたものと受け止めています。専門家も「HP制作のずぶの素人がHPに登録できることは画期的」と舌を巻いています。

新聞・雑誌編集、広報支援経験を持つマスコミOBが入会したことにより、当研究会自身に加え法人会員の最新製品・サービス・システム開発などの情報について、マスコミを通じ積極的な報道を目指せるようになりました。

情報をA4用紙1～2枚にまとめた「プレスリリース」と呼ばれる報道資料を作成、fax・メール送信・訪問面会などにより、掲載・報道を要請します。神奈川新聞横須賀支社、横須賀市政記者クラブ、大手マスコミ横須賀支社、テレビ神奈川やフリーペーパー、プレスリリース掲載サイト、ネット媒体など



「誰でもいつでも簡単に」投稿・掲載できる新HP

を対象にします。報道により知名度向上・ブランド構築・販売増加・求人効果などが期待できます。

高いニュース性と社会性があれば、NHK 横浜放送局、全国紙神奈川県版で報道が可能です。広報部会メンバーがプレスリリースを持参して直接マスコミを訪問します。これから広報マンを育てたい、広報部を新設したいと考えている法人企業は、どうぞご相談下さい。すでに昨年11月の当研究会主催の中小企業セミナー告知記事が日本経済新聞神奈川版と神奈川新聞横須賀版に掲載されました。B社のプレスリリースが掲載サイトやGoogle、Yahooなど主要サイトに登場、実績があがっています。

会報誌「ぶどうのささやき」は従来年間3回発行でしたが、今年度は4回に増やします。常時6ページ建て、部数1000部発行や広告掲載などに挑戦します。HP制作、更新を考えている法人企業、面白い情報を持っている法人企業の皆様、広報部会までご連絡下さい。

(部会長：平野和夫)

事務局からのお知らせ

- ★平成23年度定期総会が5月25日行われ活動方針、新役員等が決められ無事終了しました。
- ★理事長に木下武氏、法人会員副理事長に富野養二郎氏、個人会員副理事長に古川弘康氏が決定しました。
- ★ホームページがリニューアルされました。是非ご覧下さい。 URL: <http://www.cluster.jp/>
- ★新入会員の紹介

法人会員：ANA テック株式会社 代表 安藤 準一(横須賀市内川)

法人会員：株式会社五常 代表 小野寺 義秋(横浜市金沢区福浦)

人 人 人 人 人

キャリアカウンセラー 千葉 理恵子さん

横須賀中心に企業・学校・団体にビジネスマナーと働き方を教える

パソコンのトータルサービスを手がける株式会社ティー・エム・シー（横須賀市追浜本町）の専務を務める傍らキャリアカウンセラーとして活躍する千葉理恵子さん。横須賀市を中心に、10年以上にわたり企業・団体・学校・NPOなどのビジネスマン、OL、学生に対し、ビジネス研修とキャリアセミナー・メンタル研修を行っています。

身だしなみ、挨拶、お辞儀、言葉使い、電話対応、名刺交換などのビジネスマナー細部に至るまで、幅広く教えています。ここ1年間だけでも企業、歯科医院、自衛隊、スポーツクラブ、市内の中学校、福祉関係団体などでビジネスマナーやキャリア研修・メンタル研修を実施しました。

ユニークなのが市内の中学2年生を対象にビジネスマナーの研修を行っていることです。地域の力で中学生の職業観を正しく育もうと、横須賀商工会議所などの呼びかけで実施している「よこすかキャリア教育推進事業」。地元の協力企業・団体が中学校に社員を「私の町の先生（マイ・タウン・ティーチャー）」として派遣し、



研修の様子

仕事の厳しさ・達成の喜びなどを教えるものです。

千葉さんは協力企業の1社として中学2年生にビジネスマナー研修を行いました。「座学でなく、名刺の出し方などを実際にロールプレイしてもらいました。私の研修は、体で感じて自分のスタイルに気づくことを大事にしています」と語る千葉さん。当産業クラスター研究会も昨年、千葉さんを講師に迎え、地元企業の新入社員に敬語の使い方などビジネスマナー研修を行い、今年も8月に社会福祉法人の新入社員向け研修を実施します。

キャリアカウンセラー
千葉理恵子さん

「横須賀のために働く地元貢献企業」を自任する千葉さんは、中小企業経営者に「企業活性化方法」について次の通りアドバイスしています。

- ①社員の得意・不得意、強み・弱みを正確に把握し、適材適所で配置する。社員の適正配置がモチベーション、生産性向上に効果を上げる。
- ②上に立つ幹部が率先してビジネスマナーを身につけ、社員の模範となる。社員も会社の大切な顔であること（雇用される能力）を自覚し、一人一人の仕事に対する意識こそが会社の評価に繋がることを認識する。
- ③経営幹部は常に自社の将来絵図を社員に伝え、実現に向けて今できることを語る。そして何を優先すべきかを共有し、社員が納得して共に行動できる環境を提供する。

皆さんの会社はいかがですか。

(インタビュー・広報部会長 平野和夫)

平成23年度定期総会・経営者交流会・懇親会

平成23年5月25日午後5時から「特定非営利活動法人 産業クラスター研究会」平成23年度定期総会が横須賀市産業交流プラザ第2研修室で開催されました。

開会宣言に続き会員状況報告、総会成立確認、理事長挨拶、議長選出、議事録作成者及び署名者指名が行われました。議長に選出された株式会社ヘリオス・富野養二郎社長の



定期総会

の議長挨拶の後、議決事項審議に入りました。平成22年度事業報告及び決算報告、平成23年度事業計画及び予算報告及び定款変更のいずれもが審議の結果、承認されました。

平成23年度は全役員の任期満了となるため新役員の選出が行われました。法人会員理事は再任として(株)ヘリオス富野氏、(株)コズミック高井氏、日本電子エンジニアリング(株)高橋氏、(株)アサヒリソース安藤氏、(有)湘南安全硝子

濱田氏、新任として(株)大倉物産宮崎氏が推薦提案され承認されました。個人会員は新理事として立候補した古川氏、鈴木氏、再任として木下氏、大久保氏、佐々木氏、新任として阿部氏、平野氏が推薦提案され承認されました。監事は(有)TMA 商事白井氏が再任、三浦藤沢信用金庫原田氏が新任で選出されました。

総会終了後、経営者交流会が開催され、大震災直後被災地入りした(株)ヘリオス、富野社長が「国、地方自治体の行動は鈍い。これに比べ民間企業の復興のための活動は素早かった」と報告がありました。恒例の懇親会では、大震災後の景気回復・復興がかなり遅れそうなど情報交換する真剣な経営者の姿が見られました。



懇親会

サラリーマンOBの生きがいづくり 2012年問題への対応策を提案

吉田雄人・横須賀市長と「海軍カレーで車座ランチ」

4月7日、木下武理事長以下会員7名が市役所内で吉田雄人市長を囲み、割り勘で海軍カレー(500円)を食べながら、ざっくばらんに課題解決の意見交換をする「海軍カレーで車座ランチ」が行われました。

木下理事長が東日本大震災の被災者の方への義捐金、10万円を吉田市長に手渡しました。同時に当研究会としても「被害を受けた法人会員や横須賀市内を含めた全国の中小製造企業に対して、出来る限り支援をしたい」と決意を述べました。これに対し、吉田市長は「つい先ほど、記者会見で市としての被災者への空き家提供など支援策を発表したばかり」と、当研究会の姿勢に対し謝意を表明しました。

当研究会はサラリーマンOBの生きがいづくりにつながる「2012年問題への対応策について次の通り、提言しました。

1. 団塊世代が大量に定年(60歳)退職する「2007年問題」は、企業側の定年延長などの措置により一時的には収束したが、その人たちが2012年に65歳の第二の定年を迎え、今度は大量に地域社会に入ってくる。
2. 横須賀市の場合、第二の定年を迎えるこれら団塊世代男性の約7割がサラリーマンOBである。彼らは元気である上に知識・経験・行動力で優れているが、仕事中心だったため地域社会との接点が少ないという問題を抱えている。

3. そこで当研究会が地域社会入門講座などを開き、地域住民としての覚悟を持ち、高齢化・要介護人口増など横須賀市が抱える諸問題の解決に協力してもらえる仕組みづくりをしたい。

これに対し吉田市長は「私も議員を目指し地元消防団に入ったりするなど地域に根ざした活動をしてきた。地元との接点が少ない人が(定年後すぐ地元へ溶け込むなど)新規参入するのはかなり難しいだろう」として、当研究会の提案に対し一定の理解を示しました。



吉田市長(奥中央)を囲み話が弾んだ「海軍カレーで車座ランチ」

発行：NPO法人 産業クラスター研究会 / 〒239-0847 横須賀市光の丘8-3 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 / 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69-26

Tel : 045-781-8025

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武